

愛媛新聞（2026年2月16日）に掲載されました。

乳・前立腺がん 早期発見を 松山 市民公開講座に110人

部位別がん罹患数が女性1位の乳がん、男性1位の前立腺がんについて学んだ松山赤十字病院の市民公開講座



部位別がん罹患（りかん）数が女性1位の前立腺がんについて学ぶ市民公開講座が14日、松山市文京町の松山赤十字病院であった。医師3人が基礎知識や早期発見の大切さを解説し、受講者約110人が理解を深めた。

乳がん治療は、ステージやサブタイプ（性質）で選択肢が変わる。乳腺外科部長の西山加那子医師は発症が3代から増え、70代までピークが続くことから「幅広い年代の患者がいて、妊娠の希望や生活状況など背景も多様。医師と一緒に考え、治療方針を決めていく」と解説。普段から自分の乳房の状態を知

り、変化に気付くブレスト・アウェアネスの大切さを訴えた。

前立腺がんの診断は、血中のPSA（前立腺特異抗原）濃度を測り、異常値なら最終的に超音波で生検を行う。泌尿器科部長の矢野明医師は、MRIと超音波の画像を融合させた生検により、がんの見落としを減らせるとした。ロボット支援手術で「体の負担を減らし、機能の温存などを図れる」と語った。

健診部の村上一雄医師は予防に関し、禁煙や節酒、動物性脂肪の過剰摂取への注意、体重管理などの工夫を紹介。定期的な健診・検診の重要性を呼びかけた。

（香川華代）

掲載許可番号：d20260224-06